

2024（令和6）年度 第2回八尾市外国人市民会議【会議録概要】

日時：2025年3月5日（水） 午後7時から午後8時30分まで

場所：八尾市役所6階 603会議室

出席委員：野中 モニカ、桑名 恵、李 昌宰、ジェレミー カールソン、

レ ティ キウ ナアー、ダーリントン ティカス イブラヒム、朴 洋幸、

清原 沙知子、山内 雅之（敬称略）

事務局（人権政策課）：宮崎課長、富田係長、岸本

1. 開会

2. 八尾市多文化共生推進計画2023年度実績（基本目標2・3）の報告について

資料1について事務局より説明。

<資料1>についての質問など>

・「N0.32 外国人市民に配慮した避難所の整備」について、活動範囲は限定されるが、他の自治体では外国人市民に消防団へ加入してもらい、支援される対象ではなく、当事者として地域の取り組みに入りこんでもらう呼びかけを行っているところもある。

⇒（委員）外国籍であっても、消防団に加入できるのか。

⇒（委員）加入ができる自治体も増えているようだ。

・「N0.62 多言語対応できる病院・薬局についての情報提供」について、翻訳機で対応しようとする病院が多いのに、なぜ評価がBなのか。翻訳機対応でも、病院側と外国人患者がコミュニケーションできているのであれば問題ないと思う。

⇒（事務局）まだまだ患者側が通訳者の同行を求められてる状況があると聞いており、評価がBとなっている。

・「N0.70 重度心身障がい者特別給付金の支給」について、支給件数が3件にまで減少している。これは対象者が少なくなってきたという認識でよいか。

⇒（事務局）担当課に確認する。

・「N0.77 大阪あんぜん・あんしん賃貸住宅登録制度の普及・促進」について、本当に外国人が安心して住むことができる住宅として1,600戸以上登録されているのか。

⇒（事務局）この数は、外国人住民向けだけではなく、高齢者や障がい者を対象に含めたすべての件数になる。個々の項目ごとの集計はしていない。

3. 多文化共生推進研修内容の報告について

資料2について事務局より説明。

⇒（委員）このような研修は1回限りではなく、今後も年に1回開催出来れば良いと思う。多くの職員に浸透するような会議にしていきたい。

4. 意見交換 テーマ「カタログポケットを知ってもらうには」

資料3について事務局より説明。

＜意見交換＞

- ・カタログポケットを広めるには、全戸配布している市政だよりでカタログポケットが多言語でみれることを大きく広報する必要がある。
- ・市政だよりにどんなことが掲載されているかを外国人市民に知ってもらうことが必要である。
- ・市政だよりの情報を知ることがお得だと感じてもらえれば見てもらえるのではないかな。
- ・色々と改善してほしい点はあるが、このようなアプリは賛成である。
- ・カタログポケット内で検索するとき日本語対応のみとなっているので、使いやすいとはいいいにくいのではないかな。ただし、スマートフォン自体の言語設定ができているとアプリ内言語が変更され、問題なく利用できる。
- ・ブラウザよりもアプリの方が見やすいので、勧めるのはアプリの方がよい。
- ・普段から Google 翻訳を利用しているため、紙の広報紙をカメラで読み込む方が読みやすい。
- ・自動翻訳ではあるが、記事内容について理解できるぐらいの精度があると思う。
- ・電話番号やメールアドレスを押せば、電話の発信やメールの送信ができると便利だと思う。
- ・検索結果が最新順とならず、また多言語表記は掲載月のみ表示されており、何年発行なのか分からない。カタログポケットに登録する際に西暦も入力してほしい。
- ・広報紙の中で知りたいワードで検索することが出来る機能がほしい。
- ・自動翻訳のため、地名がうまく翻訳されていない。
- ・アプリ内では、表が翻訳されていない。
- ・アプリを開くと最初に「人気」のページが開き、そのページに掲載された広報紙が目を引き、上位に上がってくる他の自治体の取り組みを参考にしたい。

5. 外国人市民会議のまとめについて（2023 年度～2024 年度）

資料4について事務局より説明。

6. その他（各委員より一言）

- ・この会議は外国人市民が意見を述べるととても大切な会議だと認識している。今後も時代に合わせた課題設定をしながら、活発に意見交換できる会議にしてほしい。
- ・この外国人市民会議を通して、自分自身が多文化を伝える事業に携わることになった。多文化を理解することは大切だと思うので、今後も自分にできることをやっていきたい。
- ・学校現場は行政の取り組みを知らないことを実感した。今後もしっかりと情報収集していき、外国人児童と保護者にとって最善の策を考えていきたい。
- ・会議を通して色々なことを学んだ。多文化共生がさらに進んでいくよう協力したい。
- ・外国人市民だけのためだけでなく、八尾市全体がさらに豊かになる、住みやすくなるための会議であるということを認識し、これからも活動してほしい。
- ・外国人市民の困っていること等について、この会議を通じて知ることができた。常にその視点を忘れず、自分が発信していく側になっていきたいと思う。

- ・ 八尾市国際交流センターの取り組みが多文化共生推進計画上にもたくさんある。今後も様々な事業を通じて、多文化共生を進めたいので、協力をお願いしたい。
- ・ 会議を通じて、八尾市の多文化共生の推進に向けて活動されている方々から様々なことを学ぶことができた。それを教育に活かしていきたい。
- ・ 以前は「外国人住民向けの情報が発信されない」という状況であったが、今後は「外国人住民に届いた情報を、どのように活用してもらうのか」が課題になっていくと思う。このように今後も新たな課題が発生すると思うが、「国籍に関係なく同じ人間としてどのように暮らしていくのが良いのか」を念頭に置いて、活動を継続してほしい。

7. 閉会